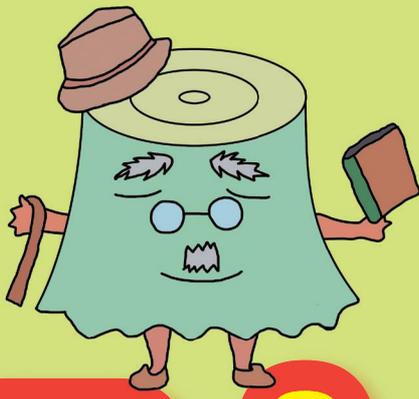


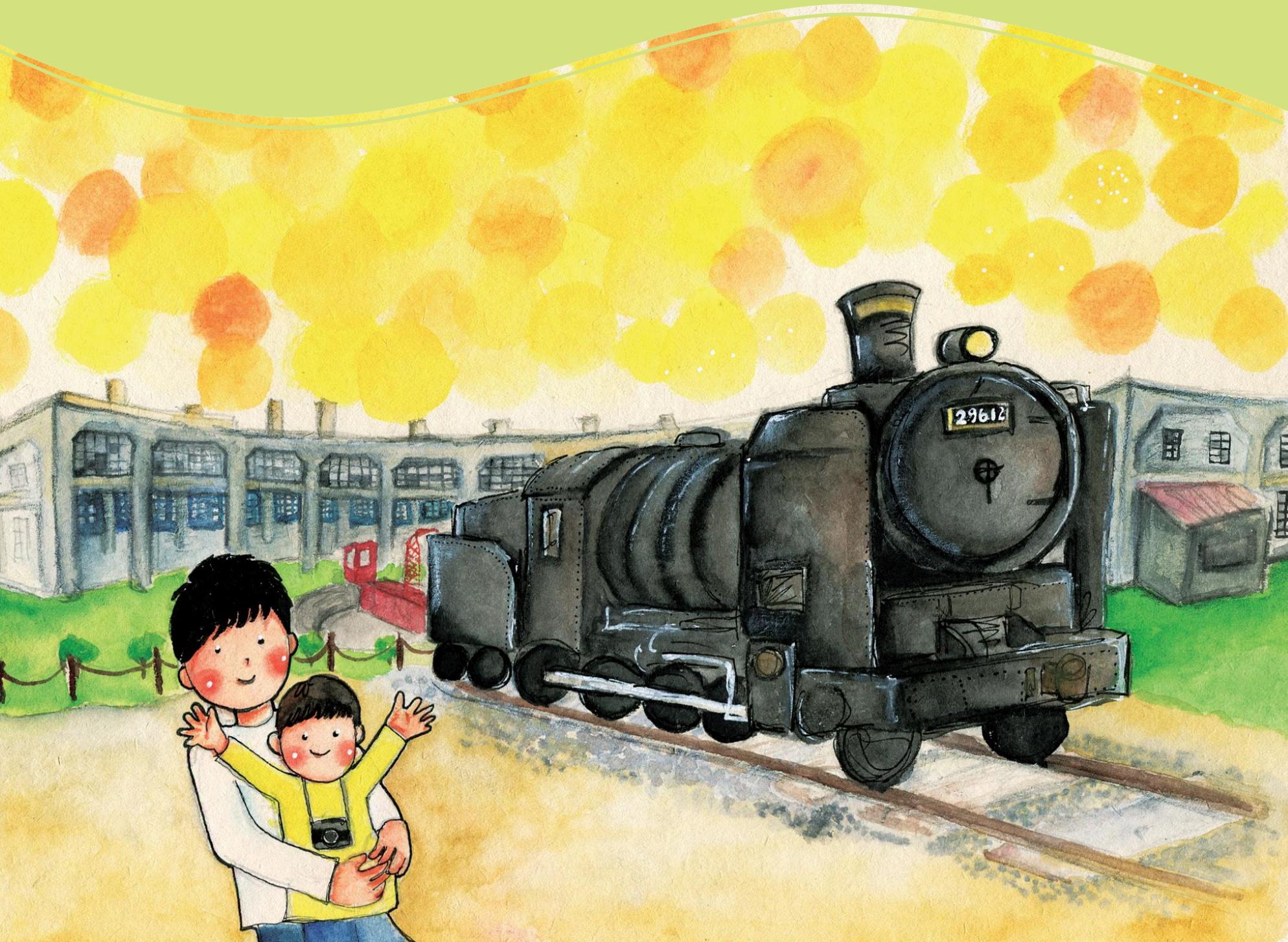
保存版



玖珠町



防災ガイドブック



町民の皆様へ

—— 「玖珠町 防災ガイドブック」発行によせて ——

このたび町民の皆様には風水害や地震に関する情報を提供し、災害に対して事前の備えに役立てていただくことを目的に「玖珠町 防災ガイドブック」を作成いたしました。

近年、日本列島はもちろん世界的に見ても地球温暖化など地球環境の変化による自然災害が多発しており、とくに忘れがちな災害が身近なものとして、危機感が高まってきております。

このような大雨や地震などの自然災害を私たち人間は止めることはできませんが、その被害を普段の備えと心構えによって、最小限に抑えることができます。

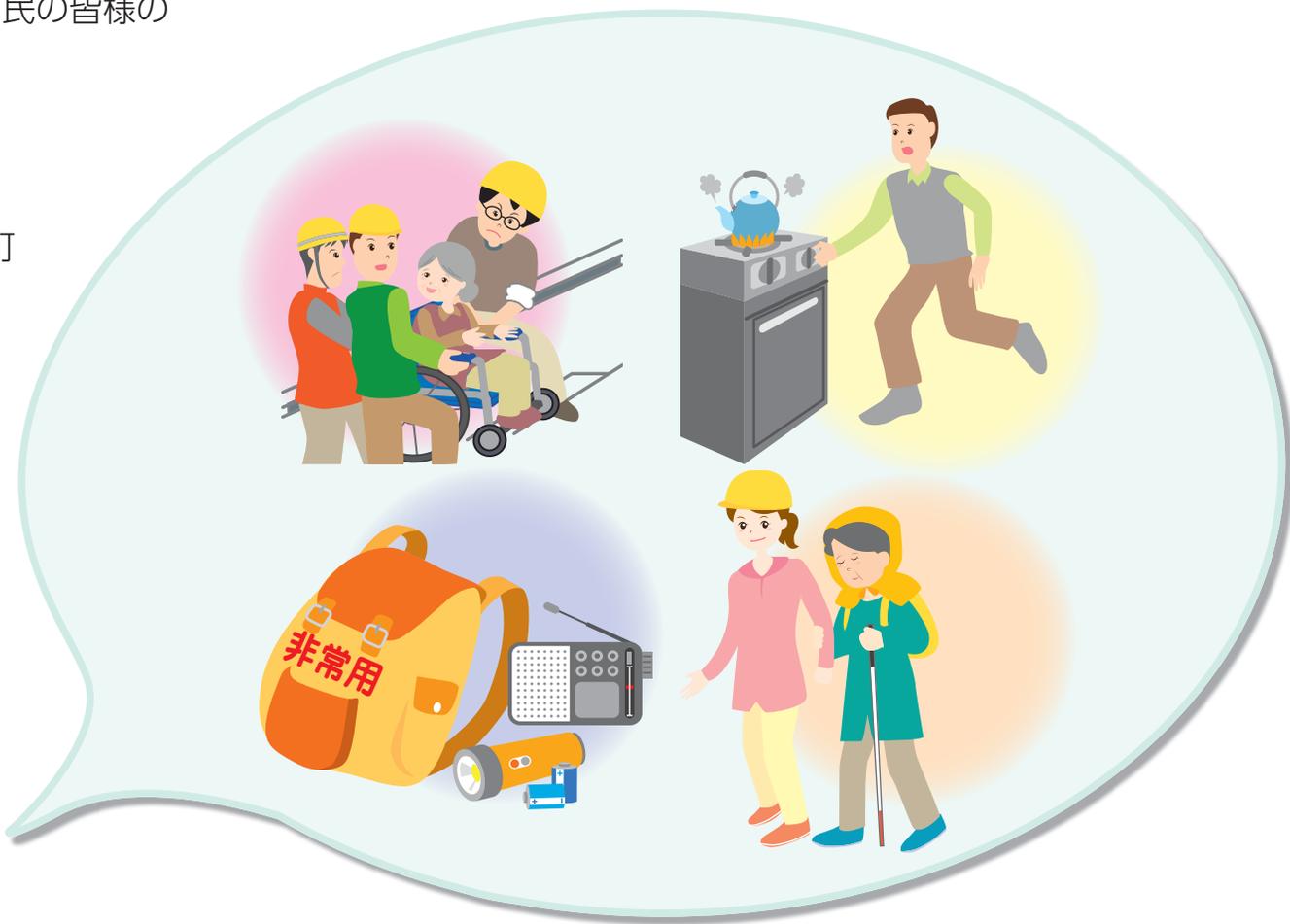
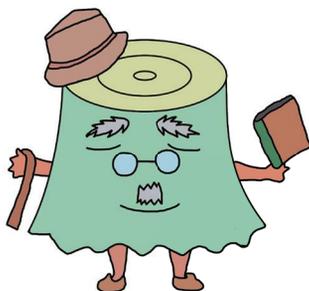
本町では「災害に強い安心・安全なまちづくり」を主要な施策として掲げ、様々な防災・減災の取り組みを進めておりますが、ひとたび発生した災害から自らを、そして地域を守るためには、町民の皆様一人ひとりに防災意識を高めていただき、自主防災組織の整備に取り組むことが何より重要です。

この「防災ガイドブック」は、土砂災害危険箇所や避難所などをはじめ、様々な災害に対する知識と備えをまとめております。ご家族で防災について話したり、自主防災組織などの活動の際にぜひ役立てていただきますようお願いいたします。

結びに、町民の皆様と行政が連携・協力し「災害に強いまちづくり」の実現にむけて、全力をあげて取り組んでまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成30年3月 玖珠町

役立ててね!



発行：玖珠町 制作・著作：株式会社ゼンリン大分営業所 作成：平成30年3月

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号平29情使、第445－A76号）」
「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。（承認番号平29情使、第444－A120号）」

（禁無断複製）©2018 ZENRIN CO., LTD.

マップの見方

防災ガイドブックは、見やすい場所に置き、常に確認できるようにしてください。

ハザードマップに表示してある危険箇所については、崖崩れ及び土石流等の発生する可能性がある場所を示しています。

指定避難所は、災害によって住居を失う等、被害を受けた人や受ける可能性のある人が一定の期間避難生活をする場所です。よって、災害から一時的に避難する場合は、指定緊急避難場所及び避難経路を各家庭又は自治会で決めておく必要があります。

【目次】

● マップの見方 …………… 1	● 特別警報をご存知ですか? …………… 12
● 避難所・避難場所マップ …………… 2	● 県民安心・安全メール …………… 13
● 避難情報 …………… 4	● 防災対策&チェック …………… 14
● 避難所・避難場所一覧 …………… 5	● 非常時持ち出し品の準備&チェック …………… 16
● 避難時の注意点 …………… 6	● 家庭での備えされてますか? …………… 18
● 洪水 …………… 7	● 家庭のオリジナルマップを作ろう! …………… 19
● 土砂災害 …………… 8	● 自主防災組織 …………… 20
● 風水害・台風 …………… 9	● 防災メモ …………… 21
● 火災 …………… 10	● 防災に関する知識 …………… 裏表紙
● 地震 …………… 11	

避難所・避難場所マップ

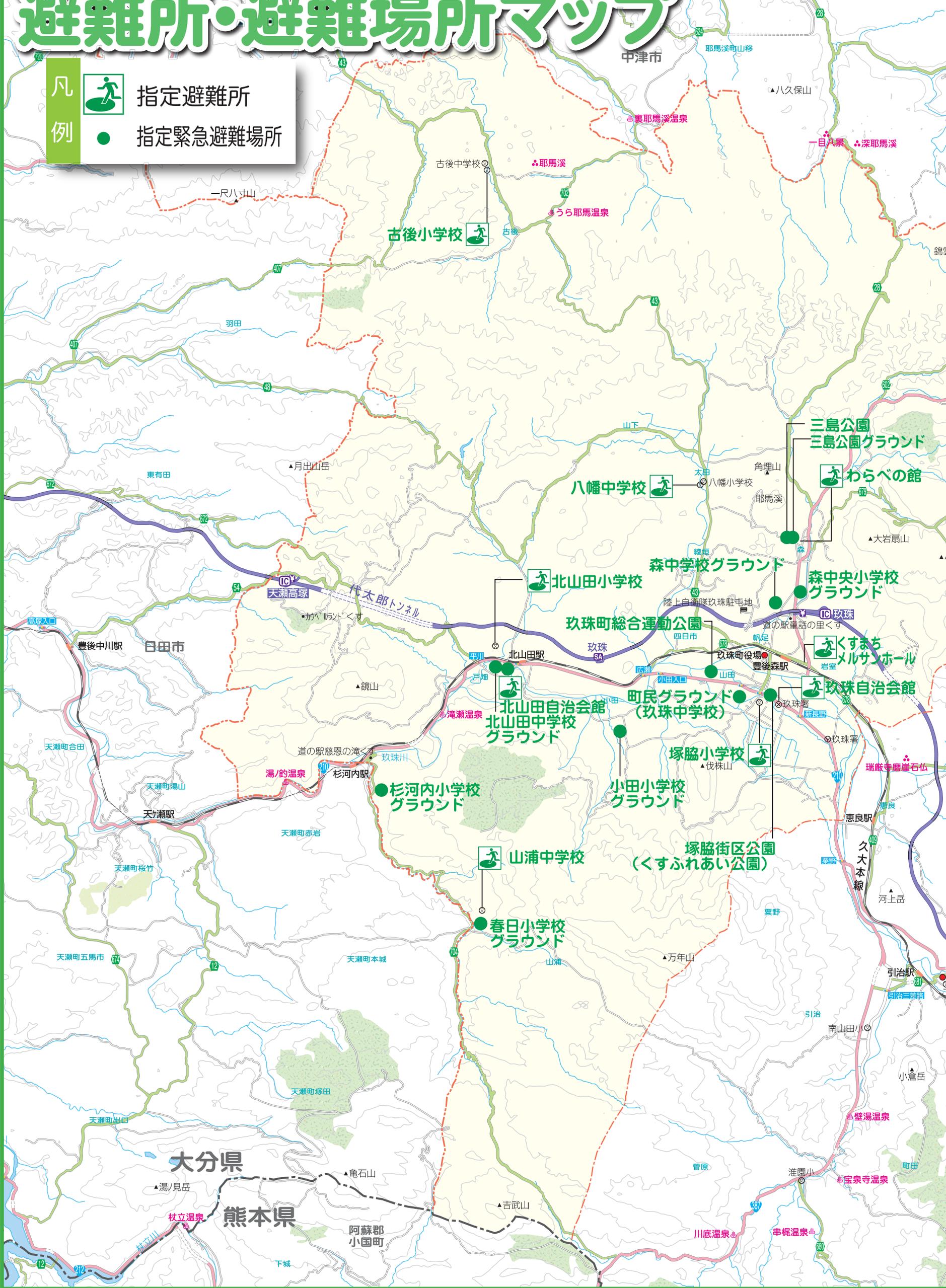
凡例

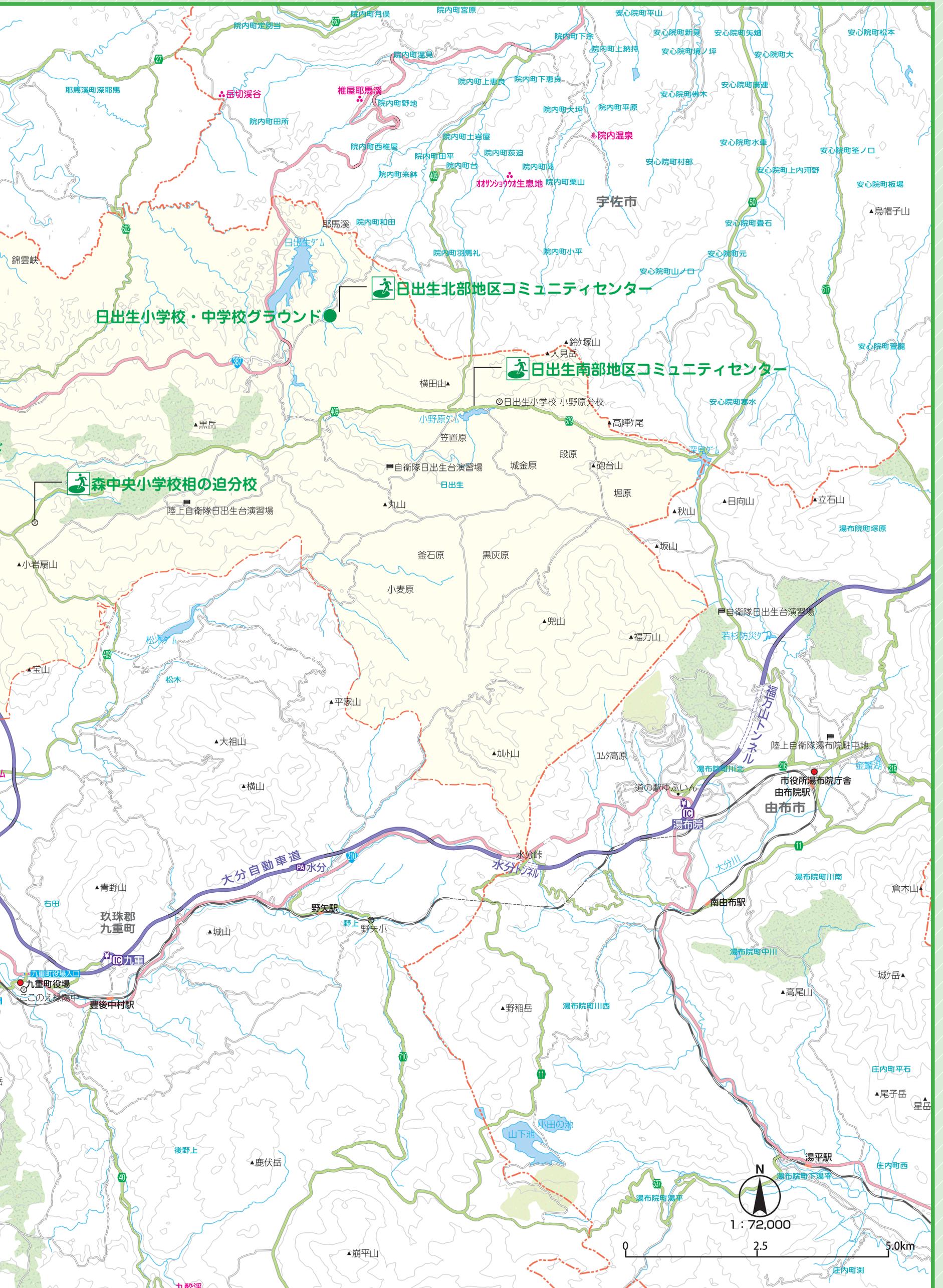


指定避難所



指定緊急避難場所





避難情報

町では、みなさんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、みなさんに避難を促します。避難情報を発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します。

避難情報と住民のみなさんの行動

避難情報は、災害の種別ごとに避難行動が必要な地域を示して発令します。町から発令される避難情報の入手方法(町のホームページ、防災無線等)について確認しましょう。町から発令される避難情報には、以下のものがあります*。

避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合

避難準備・ 高齢者等避難開始

- いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。
- 避難に時間を要する人(高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方など)は避難を開始しましょう。

避難勧告

- 避難場所へ避難をしましょう。
- 地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難をしましょう。

避難指示(緊急)

- まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

*必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

大雨のとき

各河川ごとの水位基準が避難を要する水位に達したときや、県と気象台が共同で土砂災害警戒情報を発表したときに**避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)**を発令します。



大雨のときの避難行動

1

指定避難所
への移動

2

警戒区域等内の自宅など
から移動し、
安全な場所への避難
(公園、親戚や友人の家等)

3

近隣の強固で
高い建物等
への移動

4

建物内の安全な場所での待避
(家屋内の垂直避難)

やむを得ず、家屋内に留まった場合。安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

屋外が安全で移動できる状態のとき

屋外が危険な状態などのとき

*特に、河川氾濫の浸水区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、みなさんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。

地震のとき

大きな地震に伴って、建物の倒壊の危険や火災発生のため、避難が必要なときや、土砂災害の危険が切迫しているとき、または危険物取扱施設の爆発など、二次災害が発生する恐れがあるときに**避難勧告、避難指示(緊急)**を発令します。

火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに**避難勧告、避難指示(緊急)**を発令します。

その他

災害が発生するおそれがあるときに**避難勧告、避難指示(緊急)**を発令します。



避難所・避難場所一覧

指定避難所

災害による家屋の倒壊などで、**居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として**、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

No.	施設名	所在地	電話番号	対象とする異常な現象の種類
1	わらべの館	玖珠町大字森 868-2	72-6012	水害・土砂災害・地震
2	くすまちメルサンホール	玖珠町大字岩室 24	72-0601	水害・土砂災害・地震
3	森中央小学校相の迫分校	玖珠町大字岩室 2085	72-4531	水害・土砂災害・地震
4	日出生北部地区コミュニティセンター	玖珠町大字日出生 1926-5	72-1891 (対策本部)	水害・土砂災害・地震
5	日出生南部地区コミュニティセンター	玖珠町大字日出生 1666-145	72-1891 (対策本部)	水害・土砂災害・地震
6	玖珠自治会館	玖珠町大字塚脇 462-1	72-1511	水害・土砂災害・地震
7	塚脇小学校	玖珠町大字塚脇 198	72-0232	水害・土砂災害・地震
8	山浦中学校	玖珠町大字山浦 1851-2	73-7919	水害・土砂災害・地震
9	北山田自治会館	玖珠町大字戸畑 6520-7	73-8734	水害・土砂災害・地震
10	北山田小学校	玖珠町大字戸畑 2861	73-7524	水害・土砂災害・地震
11	八幡中学校	玖珠町大字太田 1462	72-0415	水害・土砂災害・地震
12	古後小学校	玖珠町大字古後 1611-1	74-2207	水害・土砂災害・地震

※上記1～12の施設は「指定緊急避難場所」としても指定されています。

指定緊急避難場所

洪水等による危険が迫った状況で、**住民等が緊急に避難する際の避難先として**指定されています。

No.	施設名	所在地	電話番号	対象とする異常な現象の種類
1	三島公園	玖珠町大字森 858	72-7153 (商工観光振興課)	水害・地震
2	三島公園グラウンド	玖珠町大字森 868-1	72-1111 (総務課管財係)	水害・地震
3	森中学校グラウンド	玖珠町大字帆足 2243-1	72-1001	水害・地震
4	森中央小学校グラウンド	玖珠町大字森 1-1	72-0035	土砂災害・地震
5	日出生小学校・中学校グラウンド	玖珠町大字日出生 1926-2	75-2005	地震
6	町民グラウンド(玖珠中学校)	玖珠町大字山田 328-1	72-0217	水害・土砂災害・地震
7	塚脇街区公園(くすふれあい公園)	玖珠町大字塚脇	72-7163 (建設水道課)	水害・土砂災害・地震
8	玖珠町総合運動公園	玖珠町大字山田 90	72-6880 (B&G 海洋センター)	土砂災害・地震
9	小田小学校グラウンド	玖珠町大字小田 1027-1	72-0237	水害・地震
10	杉河内小学校グラウンド	玖珠町大字山浦 835-1	—	水害・地震
11	春日小学校グラウンド	玖珠町大字山浦 2196	73-8710	水害・地震
12	北山田中学校グラウンド	玖珠町大字戸畑 6498-1	73-7517	水害・地震

避難時の注意点

「自分の命は自分で守る」という意識を持って行動しましょう!

戸締り・ガス・火元・電気のチェック

避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょ。避難時の持ち出し品は必要最小限になるようまとめましょ。

車での避難は控える!

緊急車両の通行の妨げになります。浸水すると動けなくなりますので危険です。

メモを残す!

外出中の家族へは、避難先を記した伝言メモを目立つところに残しておきましょう。

速やかに避難を!

動きやすい格好で、2人以上で避難ましょ。災害に巻き込まれる可能性があるため、忘れ物などを取りに、家に戻らないようにましょ。

洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さは50cm!!

歩ける水深は平均約50cm。水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょ!

履き物に注意!

裸足、長靴は禁物です。ひもでしめられる運動靴が良いでしょ。

ロープでつなげる!

はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難ましょ! また、水面下には危険が潜んでいましょ。長い棒を杖がわりに安全確認をしてください。



! もしも、土石流に遭遇したら

◆◆◆ 逃げ方に注意ましょ! ◆◆◆

土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいましょ。土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意ましょ。



援助が必要な人がいたら

《 高齢者や病気の方 》

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。みなさんで協力して避難ましょ。



《 耳の不自由な方 》

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かましょ。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょ。



《 目の不自由な方 》

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょ。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらいゆっくりした速度で半歩前を歩ましょ。

《 体の不自由な方 》

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で! 昇る時は前向きに、降りる時は後ろ向きにましょ。

洪水

大雨などで、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川のはん濫

雨量の増加によってもたらされるはん濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

● 外水はん濫 ●

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。はん濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



● 内水はん濫 ●

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



洪水ハザード情報

河川水位及び危険度レベル

レベル	水位	町や住民に求める行動
5		・町および住民は、新たにはん濫が及ぶ区域で避難の判断が必要
4 (危険)	はん濫の発生	・住民の避難完了
3 (警戒)	はん濫危険水位	・町は避難勧告等の発令を判断 ・住民は避難を判断 ↓ 避難勧告の発令
2 (注意)	避難判断水位	・町は避難準備情報発令（要救護者避難情報）を判断 ・住民ははん濫に関する情報に注意 ・消防団出動 ↓ 避難準備・高齢者等避難開始情報の発令
1	はん濫注意水位 水防団待機水位	・消防団待機

● 大分県河川課（雨量・水位観測情報）

町内河川の現在の様子をインターネットでご覧いただけます。

（携帯電話・スマートフォンの方は以下のQRコードから接続できます）

● 大分県雨量 ・水位観測情報

<http://river.pref.oita.jp/>



● 日田玖珠九重Webカメラ 画像提供システム

<http://webcamera.city.hita.oita.jp/cameratop.html>



土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

風水害・台風

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

■ 大雨注意報・大雨警報・記録的短時間大雨情報の発表基準

大雨注意報

大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。

【発表基準】

表面雨量指数 9以上
土壌雨量指数 104以上

大雨警報

大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

【発表基準】

表面雨量指数 13以上
土壌雨量指数 131以上

記録的 短時間大雨情報

土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っている場合。

【発表基準】

1時間雨量 110mm以上

※表面雨量指数とは、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標です。

※土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標です。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

(平均風速:m/秒)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上～800km 未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm 以上～20mm 未満	20mm 以上～30mm 未満	30mm 以上～50mm 未満	50mm 以上～80mm 未満	80mm 以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づら。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起りやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川のはん濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆ 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆ 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆ 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆ 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆ 非常時持ち出し品を準備しておく。
- ◆ 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！



火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。



初期消火の3原則

- 1 早く知らせる**
- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
 - 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

- 2 早く消火する**
- 出火から3分以内が消火できる限度。
 - 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ	水をかけるのは厳禁。消火器がなければ、ぬらしたタオルをかぶせる。
ストーブ	消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。
衣類	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。
電気製品	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて消火を。
カーテン・ふすま	引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。



- 3 早く逃げる**
- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
 - 避難するときは、煙を吸わないように鼻と口を服やハンカチでふさぎながら避難する。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子供部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。



地震

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

※就寝時の注意点については、P14もご確認ください。

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- ◆まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- ◆すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセントの処置
- ◆大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機・倒木・土砂災害等に注意
- ◆津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



3分

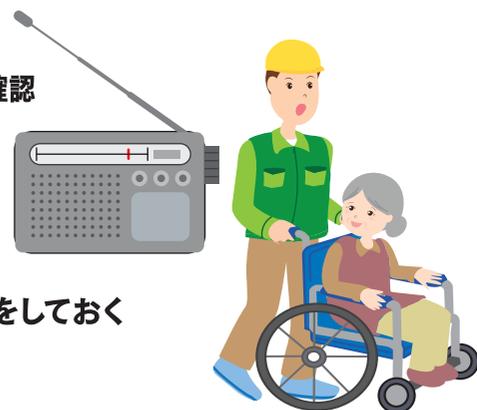
みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- ◆隣近所に声をかけよう
- ◆要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- ◆行方不明者はいないか
- ◆ケガ人はいないか
- ◆出火防止 初期消火
- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- ◆漏電・ガス漏れに注意
- ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- ◆余震に注意

5分

ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆大声で知らせる
- ◆救出・救護を
- ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認
- ◆デマにまどわされないように
- ◆避難時に車は極力使用しない
- ◆電話は緊急連絡を優先する



10分
数時間

協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- ◆災害・被害情報の収集
- ◆無理はやめよう
- ◆助け合いの心が大切
- ◆壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家の中

- ◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- ◆乳幼児や病人、高齢者や障がい者の安全を確保する。



集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ◆避難にエレベーターは絶対に使わない。

デパート・スーパー

- ◆頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- ◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞く。

劇場・ホール

- ◆頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。



屋外にいた場合

路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などが無いときは、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- ◆注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



列車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆途中で止まっても、勝手に車外へ出ない。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



特別警報 をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。
 普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の 発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

緊急地震速報 などを 特別警報に 位置づけます

現象の種類	基準
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

特別警報が 発表されたら

- ◆尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- ◆重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ◆ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



防災無線・広報車

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
 普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、
 大分地方気象台HPに詳細が
 掲載されていますので、
 ご確認ください。

大分地方気象台

〒870 - 0023 大分市長浜町 3 丁目 1 番 38 号
 電話：097-532-2247
 大分地方気象台ホームページ
<http://www.jma-net.go.jp/oita/>

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。 ※伝言蓄積数や保存期間は災害の状況により異なります。

伝言の録音	171-1-●●●●-●●-●●●●	(自宅の電話番号、または連絡を取りたい方の電話番号)	伝言保存期間	提供終了まで
伝言の再生	171-2-●●●●-●●-●●●●		伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20伝言まで
伝言内容(時間)	1 伝言あたり 30 秒以内		利用可能電話	加入電話、ISDN、ひかり電話、公衆電話、携帯電話(一部除く)等

県民安心・安全メール

情報配信メールサービスのご案内

みなさんがどこでも迅速に緊急情報や業務連絡情報を受け取れるよう、お持ちの携帯電話やパソコンへ様々な防災情報をメールで配信するサービスです。登録に関する費用は無料です。ぜひご利用ください。

※メール受信にかかるデータ通信料は利用者の負担となります。

配信情報例（選択できます）

防災情報等

気象警報や土砂災害警戒情報・地震避難に関する防災情報など

行政情報連絡情報

各種行政からの案内など



登録方法（例）

※メール・サイトの指示に従ってご登録ください。

登録や
情報提供は
無料

登録サイトは→ <http://www.bousai-oita.jp/>

1 e@bousai-oita.jp あてに空メールを送信する。（タイトル、本文は不要）
または、QRコードをバーコードリーダーで読み取ってください。



2 登録用メールが届いたら、指定のアドレスにアクセスする。

送信者：ml@bousai-oita.jp
件名：安全・安心メール 登録案内

こちらは県民安全・安心メールです。
下記の URL へアクセスして登録してください。

http://www.bousai-oita.jp/mis_reg.cgi?type...

3 県内18市町村が表示されますので、情報を知りたい地域をチェックし、**選択**を押します。

県民安全・安心メール

- 情報を知りたい地域
※複数選択可
- 大分県全域
 - 大分市
 - 別府市
 - 中津市
 - ⋮
 - 玖珠町

選択

4 受信したい情報を個別に設定してください。

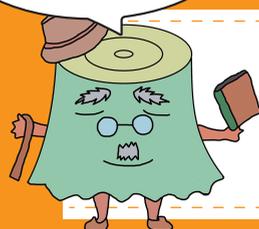
県民安全・安心メール

- ①気象情報
発表だけ受け取る
- ②地震情報（必須）
大分県西部に震度3以上
- ③津波警報・注意報（必須）
受け取らない
- ④噴火予報・警報（必須）
鶴見岳・伽藍岳、由布岳、九重山
- ⑤噴火速報（必須）
鶴見岳・伽藍岳、九重山
- ⑥降灰予報（速報・詳細）
受け取らない
- ⑦土砂災害警戒情報（必須）
受け取る
- ⑧洪水予報
受け取らない
- ⋮

決定

5 全ての設定が完了したら登録完了です!

欲しい情報を登録するだけでカンタン♪



● お問い合わせ先 ●

大分県 生活環境部 防災危機管理課

TEL 097-506-3155

防災対策 & チェック

突然の災害に備えて、今、自分たちでできることを見回してみましよう。
日頃から対策ができているか、チェック✓しましよう。

家の中の 安全対策



家の中に逃げ場としての 安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



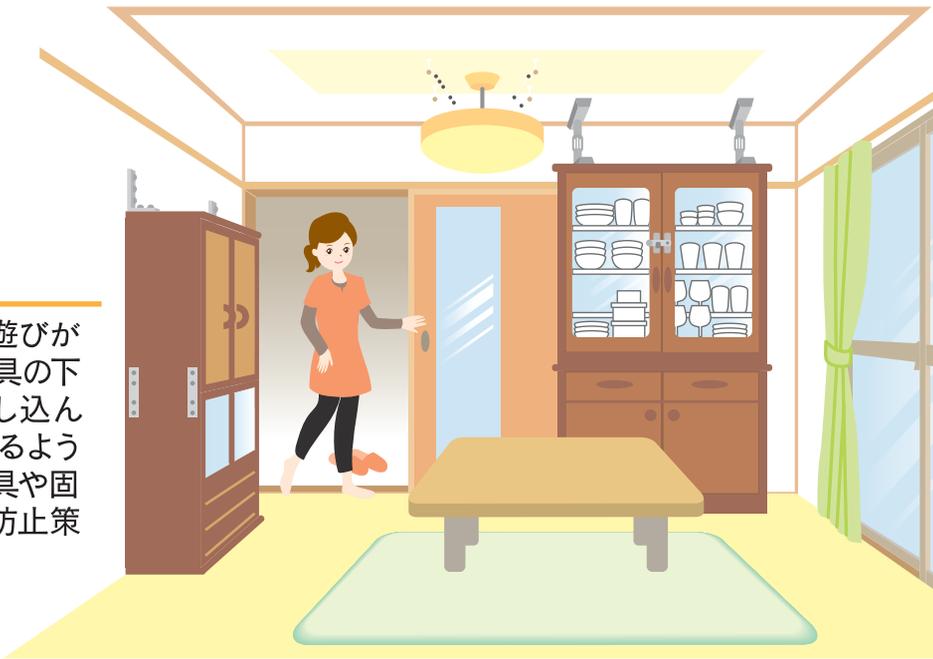
寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には 家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは家具の下敷きになる可能性がある。家具の近くでは寝ない。



家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



安全に避難するため、 出入口や通路にもものを 置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家の周囲の 安全対策



屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。



ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。



窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



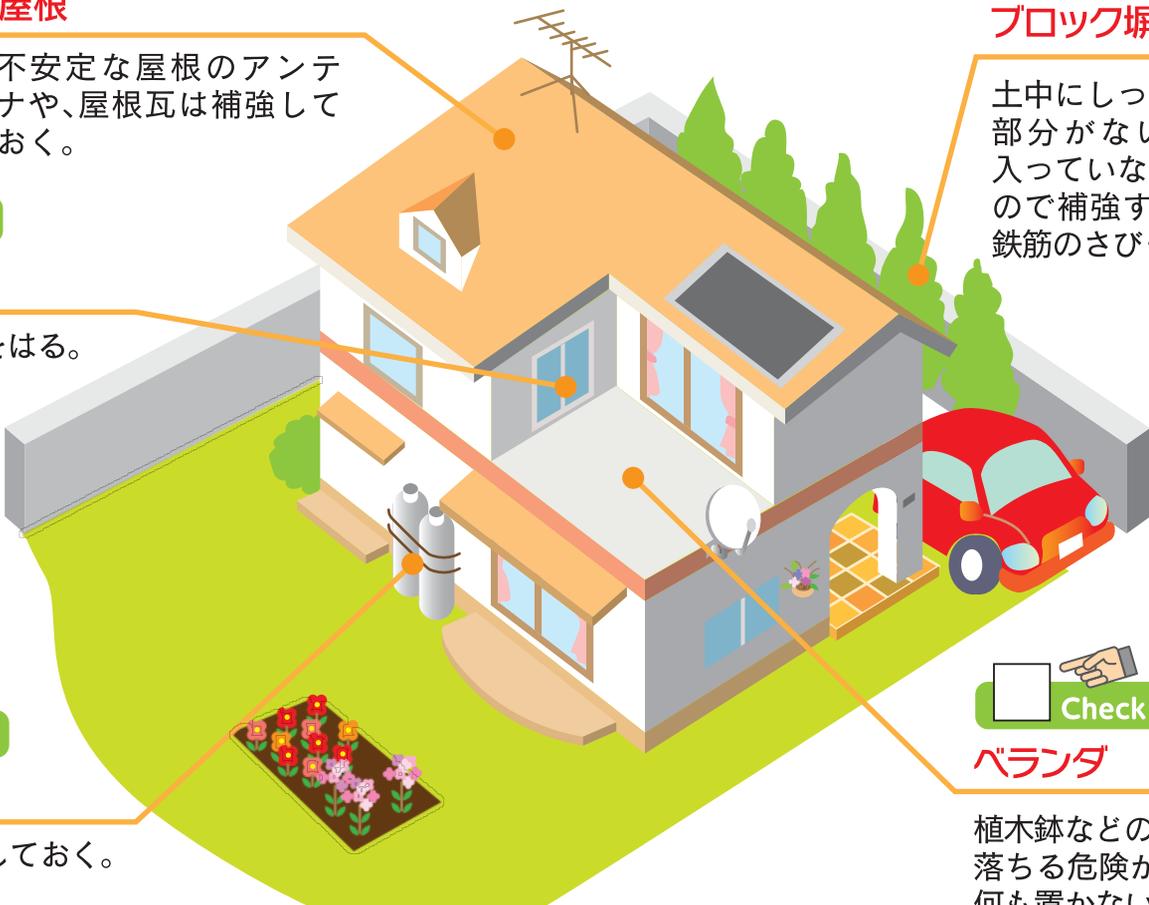
プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。



ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



非常時持ち出し品の準備 & チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。
日頃から準備できているか、チェック☑しましょう。

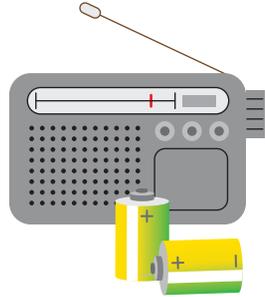
非常時 持ち出し品(例)

それぞれのご家庭の状況に応じて必要なものを記入するなどして、活用してください。

貴重品



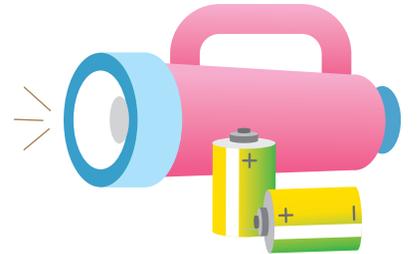
携帯ラジオ



救急医療品



懐中電灯



<input type="checkbox"/>	現金	<input type="checkbox"/>	預金通帳	<input type="checkbox"/>	ラジオ	<input type="checkbox"/>	常備薬	<input type="checkbox"/>	絆創膏	<input type="checkbox"/>	懐中電灯 (できれば一人にひとつ)
<input type="checkbox"/>	印鑑	<input type="checkbox"/>	免許証(写し)	<input type="checkbox"/>	電池 (多めに用意)	<input type="checkbox"/>	傷薬	<input type="checkbox"/>	包帯		<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	健康保険証 (写し)	<input type="checkbox"/>	権利証書	<input type="checkbox"/>	携帯電話・ 充電器	<input type="checkbox"/>	風邪薬	<input type="checkbox"/>	胃腸薬	<input type="checkbox"/>	ろうそく
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	鎮痛剤	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

非常食品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など



その他



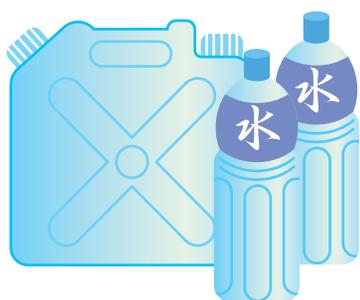
<input type="checkbox"/>	非常用食品	<input type="checkbox"/>	紙皿	<input type="checkbox"/>	飲料水	<input type="checkbox"/>	衣類 (下着・上着など)	<input type="checkbox"/>	タオル
<input type="checkbox"/>	缶切り	<input type="checkbox"/>	水筒	<input type="checkbox"/>	栓抜き	<input type="checkbox"/>	生理用品	<input type="checkbox"/>	粉ミルク
<input type="checkbox"/>	割りばし	<input type="checkbox"/>	缶詰	<input type="checkbox"/>	紙コップ	<input type="checkbox"/>	ウェット ティッシュ	<input type="checkbox"/>	紙おむつ
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/>	離乳食
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ヘルメット	<input type="checkbox"/>	カップ
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ラップフィルム (止血や食器に かぶせて使う)	<input type="checkbox"/>	ライター・マッチ
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	防災マップ (本書)	<input type="checkbox"/>	手袋

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

非常時 備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を自活するための備蓄品

飲料水



非常食品



燃料



その他



<input type="checkbox"/>	飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)	<input type="checkbox"/>	お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)	<input type="checkbox"/>	卓上コンロ	<input type="checkbox"/>	生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
<input type="checkbox"/>	貯水した防災タンクなど	<input type="checkbox"/>	缶詰・レトルト食品	<input type="checkbox"/>	ガスボンベ	<input type="checkbox"/>	毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	梅干し・調味料など	<input type="checkbox"/>	固形燃料	<input type="checkbox"/>	調理器具(なべ・やかんなど)
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ドライフーズ・チョコレート・飴(菓子類など)	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	バケツ・各種アウトドア用品など
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

定期点検!

非常時持ち出し品は定期的に点検を!



避難生活が長引くときに便利なもの

<input type="checkbox"/>	携帯トイレ	<input type="checkbox"/>	裁縫セット	<input type="checkbox"/>	ライター・マッチ	<input type="checkbox"/>	筆記用具(マジックなど)
<input type="checkbox"/>	使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/>	布ガムテープ	<input type="checkbox"/>	大判ハンカチ	<input type="checkbox"/>	万能ナイフ
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

など

熊本・大分地震で役に立ったもの

<input type="checkbox"/>	ポリ容器	<input type="checkbox"/>	ビニールシート	<input type="checkbox"/>	ラップ	<input type="checkbox"/>	ホイッスル
<input type="checkbox"/>	新聞紙	<input type="checkbox"/>	ボール・ハンマー・のこぎり	<input type="checkbox"/>	補助用具としてロープ	<input type="checkbox"/>	予備の眼鏡・補聴器
<input type="checkbox"/>	寝袋	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

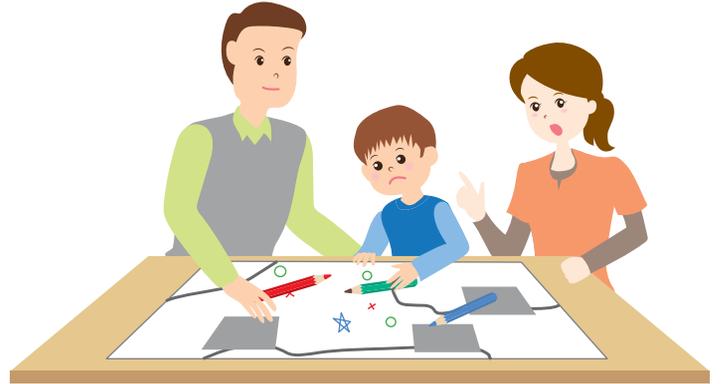
など

家庭での備えされていますか？

突然起こりうる災害を予測するのは難しいものです。いざというときの家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを普段から家族でよく話し合っておきましょう。その際、「非常時持ち出し品の準備&チェック」の頁を活用して、持ち出し品の点検も行っておきましょう。

家族で話し合っておきたい項目

- ① 家の中ではどこが一番安全か
- ② 救急医薬品や消火器などを準備しているか
- ③ 乳幼児や高齢者の面倒は誰がみるのか
- ④ 安全な避難経路、避難場所、避難所はどこにあるのか
- ⑤ 避難するとき、誰が何をもち出すのか、非常時持ち出し袋はどこに置くのか
- ⑥ 家族間の連絡方法と避難先をどこにするのか
- ⑦ 昼の場合と夜の場合の役割分担は、はっきり決まっているか
- ⑧ 地域の防災活動(自主防災組織の訓練など)に参加しているか



家庭のオリジナルマップの作成

家族で話し合った内容なども踏まえ、自宅から避難所(地)までの経路や危ない場所などを記載したオリジナルマップを作成し、家庭内で共有しておきましょう。

避難所(地)
災害が発生した際に避難する場所をあらかじめ確認しておきましょう。

危険な場所
川の近くなど、洪水時に危険となるような箇所には印をつけ、その避難経路はとらないようにしましょう。

目印となる場所
避難経路上で目印となる箇所を書き込んでみましょう。特に曲がり角には分かりやすいように目印を加えてみましょう。

避難経路
避難所(地)までの経路となる、矢印を書き込みましょう。

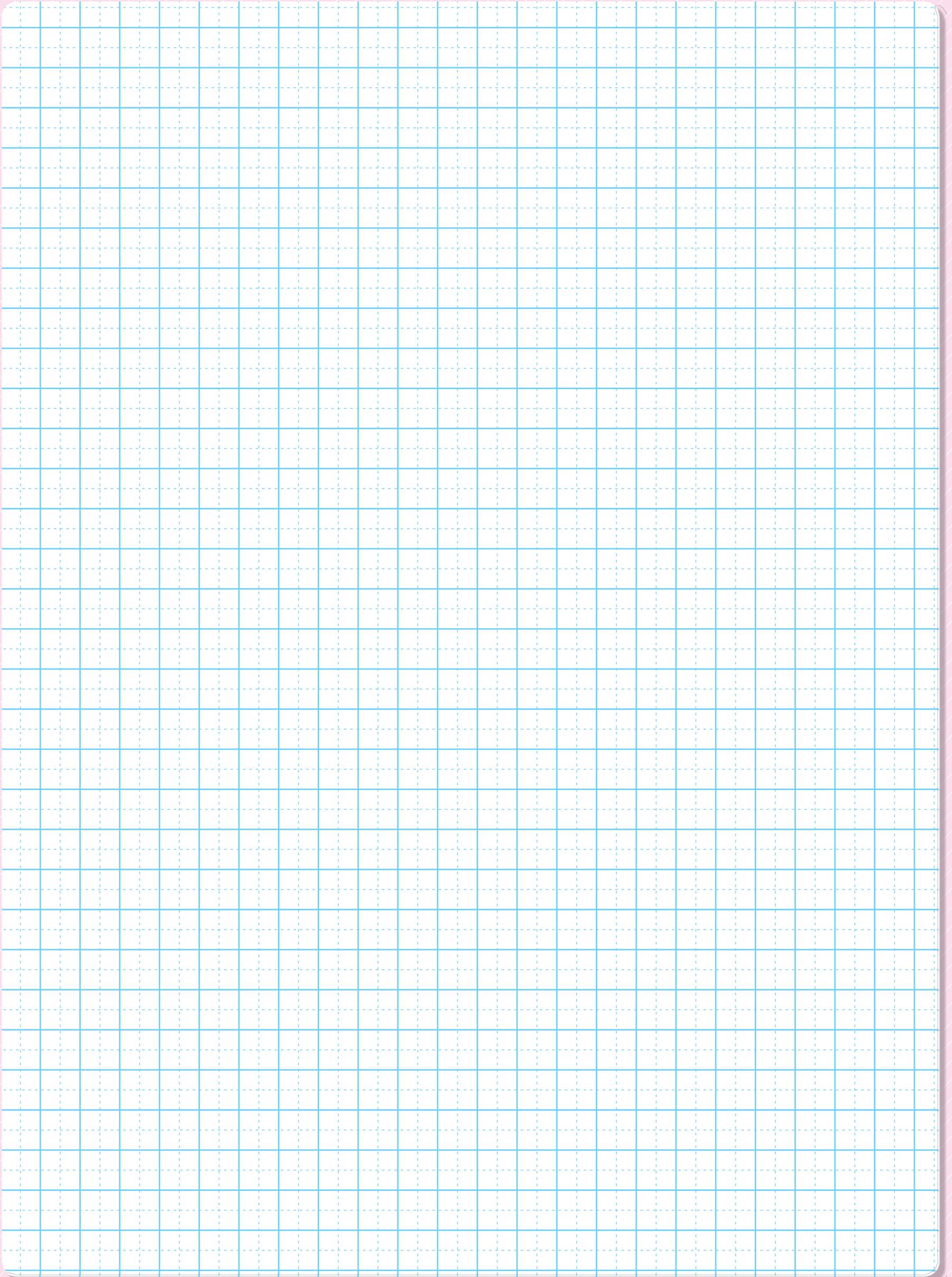
自宅
自宅を書き込みましょう。

自主防災組織への参加

巨大地震などの大規模災害が発生すると、行政が被災して、機能が麻痺する可能性が考えられます。こうした場合、個人や家族だけの力では各地域の被災者、負傷者を助けることは困難となるため、隣近所や自治区が協力して防災活動を行う「共助」が重要です。「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えをもとに日ごろの自治区活動等をとおして、助け合い体制を築きましょう。



家庭のオリジナルマップを作ろう!



自主防災組織

災害に強い地域をつくりませんか？

地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？



1. 自主防災組織とは？

- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
- このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
- より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（＝体制づくり）が重要です。

災害危険の把握

自主防災組織の活動の一環として、地域の災害危険箇所を把握し、防災に関する認識を高めることも大切です。主に次のような視点から、地域の危険箇所について把握するとよいでしょう。

地域の危険箇所把握の視点

- 本書を活用し、災害に応じた危険箇所を把握しておきましょう。
- 地域内の危険物集積地域、延焼拡大危険地域、土砂災害危険区域、ブロック塀の安全度等の実態を把握しておきましょう。
- 地域の実態に即した消防活動、災害時要援護者に配慮した避難誘導等の対応策について十分理解しておきましょう。
- 地域内の消火栓や防火貯水槽等の消防水利の所在を確認するとともに、消火用の水利として古井戸、小川等の活用も検討しておきましょう。
- 地域の災害履歴や、災害に関する伝承等を知ることにより、予防・応急活動に効果的に活用しましょう。

防災メモ



A clipboard with a silver clip at the top and a white sheet of lined paper. The paper has 20 horizontal lines for writing.

防災に関する知識

緊急時の 連絡先

消防・救急は **119**番

■気象関係

名称	電話番号
大分地方気象台	097-532-2247

■行政関係

名称	電話番号
玖珠町役場 (環境防災課)	0973-72-1891

■警察・消防

名称	電話番号
玖珠消防署	0973-72-2141
玖珠警察署	0973-72-2131

警察は **110**番

■ライフライン

(電話の故障に関することは)	電話番号
NTT西日本	0120-444-113
(電気のこと)	電話番号
九電コールセンター	0120-986-502
(上水道のこと)	電話番号
役場建設水道課	0973-72-7162

もしもの時のために**連絡先**を記入しましょう。

家族・親戚

●名前	☎	●名前	☎
●名前	☎	●名前	☎
●名前	☎	●名前	☎

かかりつけの病院

日常の心得

災害は、いつ発生するかわかりません。日頃からの備えが大切です。日頃から気象情報について、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて把握するよう努めましょう。

連絡方法 の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

社団法人電気通信事業者協会 <<災害時の電話の利用方法>> <http://www.tca.or.jp/information/disaster.html>

NTT西日本 <<災害用伝言ダイヤル171>> <http://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

NTTドコモ <<iモード災害用伝言板サービス>> <http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/index.html>

au <<災害用伝言板サービス>> <http://www.au.kddi.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>

SoftBank <<災害用伝言板サービス>> <http://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/>

緊急速報 メール

「緊急速報メール」により、緊急情報を配信します。

町では、災害時の避難勧告などの緊急情報をより多くの人にお伝えするため、緊急時に町内にいる人の携帯電話へ「緊急速報メール」の配信を行います。

○「緊急速報メール」とは、避難勧告などの緊急情報を町内にいる人の携帯電話(NTTドコモ、au、ソフトバンク)へ一斉にメールを配信するものです。

※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合がありますので、詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。

○配信する情報は、避難勧告や避難指示(緊急)など、緊急かつ重要な情報です。

○携帯電話を利用する人の費用負担や事前のメールアドレス登録は必要ありません。

